



# 序論

計画の枠組み

人口動向

町民意識調査による町民の意向

序論 計画の枠組み

## **1**

## 計画の枠組み

#### 第六次総合計画の概要

急速に進む少子高齢化・人口減少、核家族化、経済のグローバル化、気候変動等による災害の激化など、近年の小布施町を取り巻く社会情勢は大きく変化してきています。こうした状況の中で、多様化・複雑化する地域課題に対応しながら、将来にわたり持続可能なまちをつくり、次世代へつないでいくためには、中期的な展望に立った計画を策定し、町はもちろん、町民の皆さんや町内に拠点を置く事業者の皆さん、また小布施町に縁のある町外在住の皆さんとも連携・協働しながら、その実現に向けて行動していくことが必要です。

第六次総合計画は、そのような背景のもとで策定する5カ年計画です。第五次総合計画までの基本構想の理念や基本計画の大枠を継承しながら、小布施町が置かれた現状を踏まえ、小布施町が目指す「ありたい姿」(将来像)とその実現のために大切にすべき考え方(基本理念)、町の政策の基本となる人口の展望と目標(人口ビジョン)を定めるとともに、小布施町の現状と課題に対する認識を整理し、その課題に対して、5カ年の中で優先的に取り組む重点施策や、継続的に取り組む基本施策、さらには重点施策に紐付いた達成目標を定めるものです。

第五次総合計画からの変更点を踏まえた、第六次総合計画の特徴は以下のとおりです。

#### 1. 総合計画と総合戦略を一体化

これまで小布施町では、総合的な振興・発展などを目的とした「総合計画」と、人口減少克服・地方創生を目的とした「総合戦略」をそれぞれ別の計画として策定していました。時代に合った的確な行政運営を行うため、今回策定する総合計画は、地方創生の趣旨と内容を含んだ総合戦略と一体の計画として策定しています。

#### 2. 重点施策に連動した達成目標を設定

具体性を持った行政運営や事業実施を推進していくために、基本計画の中では、分野ごとに達成 目標を設定し、計画期間中の振り返りや計画期間終了時の成果測定に活用できるようにしていま す。

#### 3. 毎年見直し柔軟性を持った計画に

計画策定後も、毎年、計画内容や目標設定の妥当性について議論し見直す、柔軟性を持った計画とします。

#### 第六次総合計画の期間と構成

計画期間は、社会情勢の変化や事業の取組状況に柔軟に対応するため、令和 2 (2020) 年度から令和 6 (2024) 年度の 5 年間とします。

総合計画は、「基本構想」と「基本計画」により構成します。

#### ● 基本構想

「基本構想」は「将来像|「基本理念|「人口ビジョン|により構成します。

○ 将来像 ・・・・・ 小布施町の目指す将来像を定めるもの

○ 基本理念 ・・・・ 将来像を実現するための基本的な理念を定めるもの

○ 人口ビジョン ・・ 人口の分析及び中長期的な将来展望と目標を定めるもの

#### ● 基本計画

「基本計画」は、基本構想に掲げる理念・将来像を実現するため、重点分野として取り組むべき 「出産・子育て・教育」「健康・医療・福祉」「学び・交流・文化」「産業振興・移住定住」「環境・ 防災・インフラー「協働の推進・行財政改革」の6つの分野により構成します。

それぞれの6つの分野について、「ありたい姿」「現状と課題」「重点施策」「基本施策」「達成目標」により構成します。

○ ありたい姿 ・・・ 各分野の目指すところを定めるもの

○ 現状と課題 · · · ありたい姿を実現するため、克服しなければならない課題を整

理し、明確にするもの

○ 重点施策 ・・・・ ありたい姿の実現、課題を克服するために、町が優先的に取り

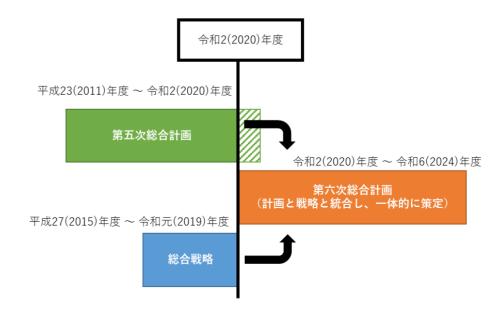
組む施策を定めるもの

○ 基本施策 ・・・・ ありたい姿の実現、課題を克服するために、町が継続的に取り

組む施策を定めるもの

○ 達成目標 ・・・・ 計画期間中や計画期間終了時の成果測定のため、個別の数値目

標を定めるもの



## 人口動向

#### 1. 時系列による人口動向分析

#### 総人口の推移と将来推計

小布施町の人口は、高度成長期の昭和  $30\sim45(1955\sim1970)$ 年に急激な減少期となりましたが、昭和 45(1970)年からは「団塊のジュニア世代」誕生や、町開発公社による宅地造成・分譲により増加傾向に転じました。その後、昭和 60(1985)年の 11,663 人をピークに、ほぼ横ばいの人口を維持していましたが、平成 17(2005)年以降は年 0.4%前後の減少が続き、平成 27(2015)年の人口は 10,702 人でした。第五次総合計画では、令和 2(2020)年の推計人口を 10,700 人、目標人口を 12,000 人としていました。

国立社会保障・人口問題研究所の平成 30(2018)年推計によると、令和 2(2020)年以降は平均年 1.2%の減少が継続し、令和 22(2040)年には 7,743 人になると推計されています。

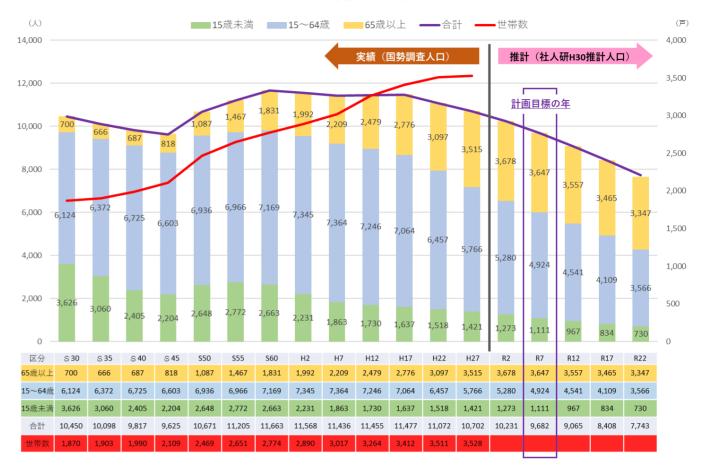
#### 年齢 3 区分別人口

生産年齢人口(15~64歳)は、昭和 30(1955)年から 40(1965)年まで増加し、昭和 45(1970)年に一度減少しましたが、平成 7(1995)年までは再び増加傾向になりました。それ以降はまた減少に転じ、現在まで続いています。年少人口(15歳未満)は、総人口同様に最も減少した昭和 45年以降、昭和 55(1980)年にかけて上昇したものの、その後は減少を続けています。老年人口(65歳以上)は、平成 7年に年少人口を上回り、その後平成 27(2015)年まで上昇を続けています。令和 2(2020)年以降は減少し始めていくと予測されています。

年齢3区分別人口の構成比の推移をみると、昭和30年においては年少人口34.7%、生産年齢人口58.6%、老年人口6.7%でしたが、平成27年には年少人口13.3%、生産年齢人口53.9%と、長期においては減少傾向でした。一方、老年人口は32.8%と増加しています。

令和 22(2040)年の構成は、年少人口 9.4%、生産年齢人口 46.1%、老年人口 43.2%となり、さらなる人口構成の変化が予想されます。

#### 図表1 年齢3区分別人口

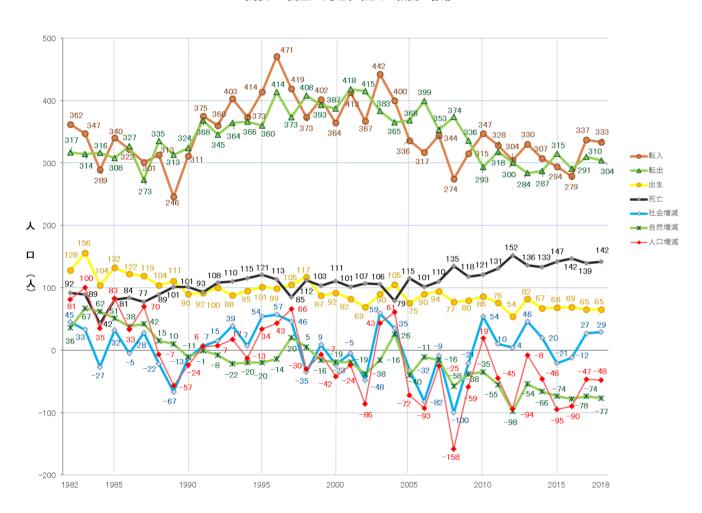


#### 出生・死亡、転入・転出

自然増減(出生数-死亡数)については、平成2(1990)年以降、出生数が減り続けています。一方、死亡数は増加傾向にあり、平成2年前後から死亡数が出生数を上回る、自然減の時代に入っています。平成30(2018)年では出生数65人に対し死亡数は142人で、自然増減は77人の減です。

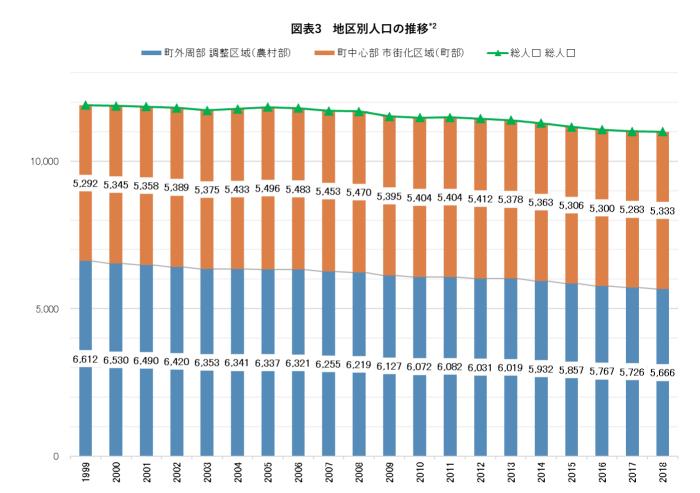
社会増減(転入数-転出数)は、平成2年から平成12(2000)年までは転入数が上回り、その後、 増減を繰り返しましたが、平成22(2010)年以降も転入数が転出数を上回る傾向にあります。最も 減少の大きかった平成20(2008)年は転入数274人に対し転出数374人で、社会増減は100人の減 でした。平成29(2017)年、平成30年においては、転入超過となっており、平成29年は27人、 平成30年は29人の増です。

図表2 出生・死亡、転入・転出の推移\*1



#### 地区別総人口

町外周部と町中心部それぞれの人口推移をみると、町外周部は平成 16(2004)年から平成 30(2018)年にかけて、平均 0.8%ずつ減少しています。町中心部は、数値は微動するものの、平成 16 年から平成 30 年の年平均減少率は 0.05%であり、人口が微減しています。



※町外周部:市街化調整区域が占める割合が多い自治会

(大島、飯田、林、山王島、北岡、押羽、羽場、六川、中子塚、矢島、清水、中条、松村、雁田、水上)

※町中心部:市街化区域の占める割合が多い自治会

(東町、上町、中町、伊勢町、中央、中扇、横町、福原、栗ガ丘、松の実、千両、クリトピア)

<sup>\*1 1982</sup> 年~1984 年の人口は国勢調査、1985 年~2018 年は住民基本台帳より作成(1985 年・1990 年・1995 年・2000 年・2015 年の総人口は国勢調査より)。人口動態は各年の1月1日~12月31日の値

<sup>\*2</sup> 住民基本台帳より作成。人口動態は各年の1月1日~12月31日の値

#### 序論 人口動向

#### 転入・転出の状況

小布施町における平成 30(2018)年の転入数は 323 人、転出数は 304 人であり、純移動数(転入数-転出数) は 19 人の増と、転入超過になっています。

転入は県内(通勤通学率 10%圏内\*3) の移動が最も多く、次いで県内(通勤通学率 10%圏外)、 転出は、県外(東京圏\*4)、県外(東京圏外)の順です。

県内(通勤通学率10%圏外) 67 人 54 人 県外 小布施町 (東京圏) (人口 10,999 人) 48 人 60 人 42 J 県外 35 人 141 人 180 人 (東京圏以外) 県内(通勤通学率10%圏内)

図表4 小布施町の転入・転出の状況(平成30年)

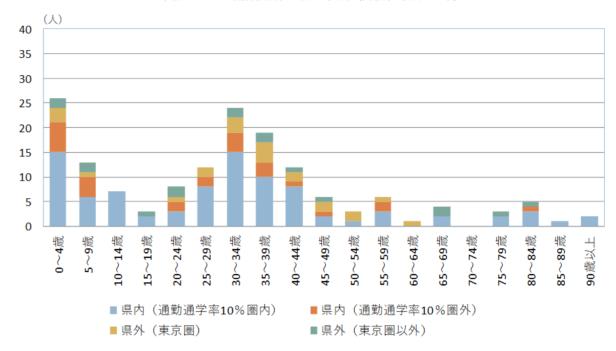
図表5 小布施町の転入・転出と純移動数(平成30年)

	転入数	転出数	純移動数
県内 (通勤通学率 10%圏内)	180	141	39
県内 (通勤通学率 10%圏外)	60	54	6
県外(東京圏)	48	67	-19
県外(東京圏以外)	35	42	-7
合計	323	304	19

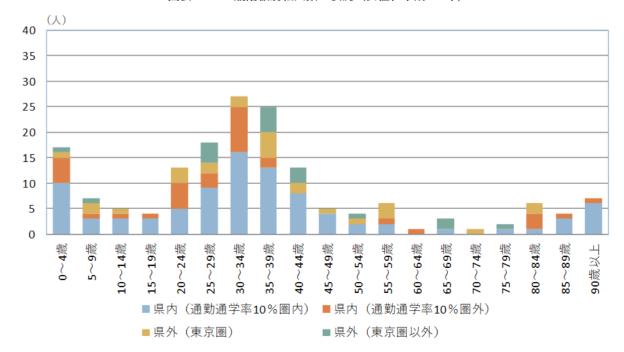
#### 性別・5歳階級別転入・転出の状況

転入の多い階級は、男女とも  $0\sim9$  歳、 $25\sim39$  歳です。特に女性に関して、 $30\sim34$  歳の転入数 が多く、 $25\sim39$  歳のどの階級においても、県内(通勤通学率 10% 圏内)からの転入が多くなっています。

図表6 5 歳階級別転入数の状況(男性、平成 30 年)



図表7 5 歳階級別転入数の状況(女性、平成30年)



<sup>\*3</sup> 通勤通学率 10%圏内は、長野市・須坂市・中野市

<sup>\*4</sup> 東京圏は、東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県

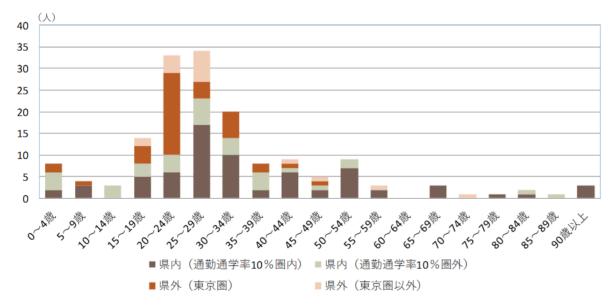
## **(1)**

#### 序論 人口動向

転出は、男女とも  $20\sim24$  歳の県外(東京圏)への転出が多くなっています。男性は  $15\sim39$  歳まで 転出が多くなっていますが、なかでも  $15\sim24$  歳の転出が突出して多くなっています。また、25 歳~ 39 歳までの男性の県内(通勤通学率  $10\%圏内)への転出が多く、女性は <math>25\sim34$  歳までの県内(通勤通学率 10%圏内)への転出が多くなっています。



図表9 5 歳階級別転出数の状況(女性、平成30年)

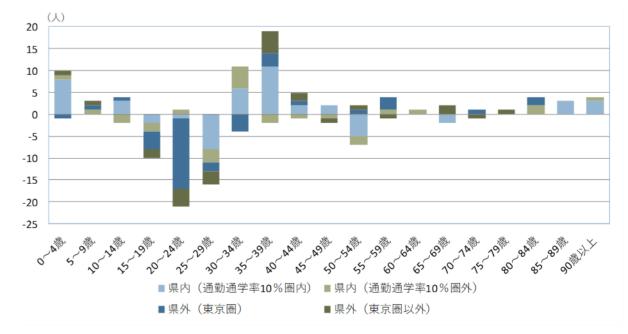


純移動 (転入数 – 転出数) については、男女ともに  $0\sim9$  歳はプラス (転入超過) となっています。また、男女ともに  $15\sim24$  歳はマイナス (転出超過) となり、30 歳以降で小布施町へ転入する傾向がみられますが、男性の方がその傾向は弱くなっています。平成 25(2013)年と比較すると、男女とも  $15\sim19$  歳の転出超過の傾向が強くなっています。 (平成 25年)平成 30年:男性マイナス 5人)マイナス 21人、女性マイナス 3人)マイナス 10人)

図表10 5歳階級別純移動数の状況(男性、平成30年)



図表11 5歳階級別純移動数の状況(女性、平成30年)



#### 子育て世帯の社会増減\*5

小布施町の平成 28(2016)年から平成 30(2018)年における子ども  $0\sim9$  歳、大人  $30\sim39$  歳の社会増減(転出入)の平均人数は、 $0\sim9$  歳が 33 人、 $30\sim39$  歳は 27 人の転入超過で、4 人家族とした場合、年 15 世帯の社会増となります。

図表12 平成 28~30 年の転入・転出者数\*6 (人)

		平成 2	28 (20	16)年		平成 29 (2017)年 平成 30 (2018)年				3 カ年平均											
	転	入	転	出	増	転	入	転	出	増	転	入	転	出	増	転	入	転	出	増	
	男	女	男	女	減	男	女	男	女	減	男	女	男	女	減	男	女	男	女	減	
0~4歳	15	10	7	9	9	20	21	8	9	24	26	17	11	8	24	20	16	9	9	19	
5~9歳	7	9	2	2	12	10	9	2	4	13	13	7	0	4	16	10	8	1	3	14	
30~ 34 歳	26	19	18	19	8	27	29	17	22	17	24	28	19	20	13	26	25	18	20	13	33 人増
35~ 39 歳	10	16	11	16	<b>1</b>	20	22	16	12	14	20	27	10	8	29	17	22	12	12	14	27 人増
合計	58	54	38	46	28	77	81	43	47	68	83	79	40	40	82	73	71	40	44	20	

#### 2. 年齢階級別の人口変化分析

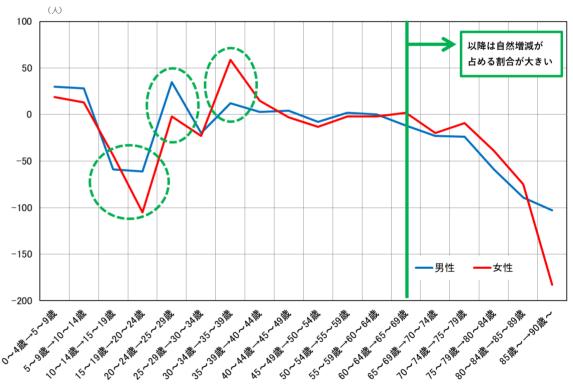
#### 性別・年齢階級別の人口変化の状況

男性・女性ともに「10~14歳が15~19歳になるとき」及び「15~19歳が20~24歳になるとき」に大幅に人口が減少しています。これは、高等教育機関などへの進学や町外への就職に伴う転出が主な要因であると考えられます。

一方、「 $20\sim24$  歳が  $25\sim29$  歳になるとき」に人口が増加しています。これは、結婚、もしくは大学卒業後のU ターン就職に伴う転入の影響が考えられます。なお、「 $60\sim64$  歳が  $65\sim69$  歳になるとき」以降も人口が減少しますが、これは自然増減によるものであると考えられます。

平成 22(2010) →平成 27(2015) 年と平成 17(2005) →平成 22(2010) 年を比較すると、平成 17(2005) →平成 22(2010) 年は、男女ともに「 $20\sim24$  歳が  $25\sim29$  歳になるとき」に最も人口が増加しますが、平成 22(2010) →平成 27(2015) 年では、男性は、「 $20\sim24$  歳が  $25\sim29$  歳になるとき」が最も多く、女性は、「 $30\sim34$  歳が  $35\sim39$  歳になるとき」が最も多くなっています。

図表13 性別・年齢階級別人口変化(平成 22→平成 27 年)\*7



<sup>\*5</sup> 子育て世帯を 0~9 歳・30~39 歳と想定

<sup>\*6</sup> 各年1月1日~12月31日 住民基本台帳移動集計値より

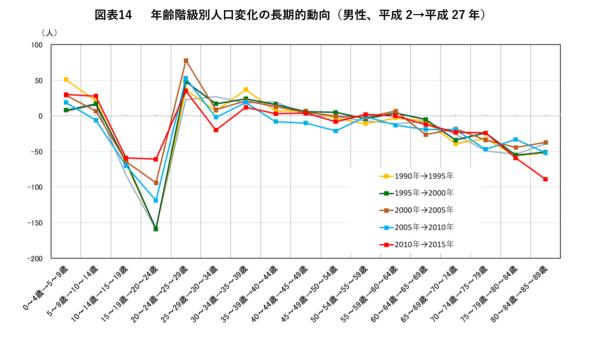
<sup>\*7</sup> 国勢調査より 2015 年と 2010 年の 5 歳階級別人口の差

## **\*\***

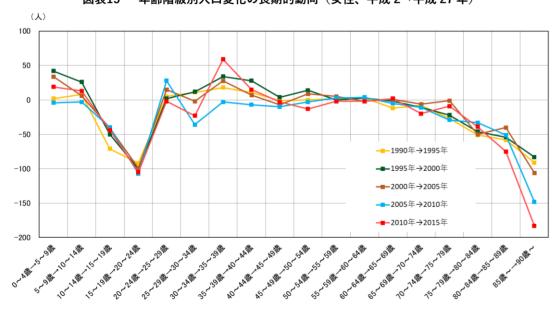
#### 性別・年齢階級別の人口変化の長期的動向

男性・女性ともに、「 $10\sim14$  歳が  $15\sim19$  歳になるとき」及び「 $15\sim19$  歳が  $20\sim24$  歳になるとき」に大幅に人口が減少する特性ならびに、「 $20\sim24$  歳が  $25\sim29$  歳になるとき」に増加する特性は、長期的動向においても同様の傾向がみられます。しかし、平成  $22(2010)\rightarrow$ 平成 27(2015)年では、女性の「 $30\sim34$  歳が  $35\sim39$  歳になるとき」の増加が多くなっています。

男性の「 $15\sim19$  歳が  $20\sim24$  歳になるとき」の減少幅は平成 7(1995)年から平成 12(2000)年をピークに縮小傾向にあり、平成 22(2010)年から平成 27(2015)年において、最小となりました。一方、女性の「 $15\sim19$  歳が  $20\sim24$  歳になるとき」の減少幅は、拡大傾向にあります。「 $30\sim34$  歳が  $35\sim39$  歳になるとき」の増加が平成 27年に最大となりました。



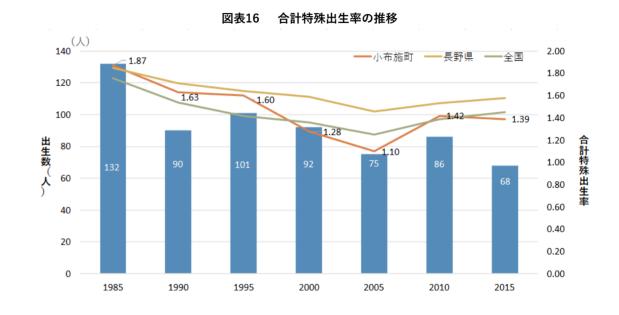
図表15 年齢階級別人口変化の長期的動向(女性、平成 2→平成 27 年)



#### 3. 出生に関する分析

#### 出生数・合計特殊出生率

小布施町の平成 28(2016)年から平成 30(2018)年における出生数の平均は、年間 66.3 人でした。 また、合計特殊出生率は、下図のとおり平成 22(2010)年は 1.42 でしたが、平成 27(2015)年には 1.39 と減少しています。



図表17 合計特殊出生率の推移

区分	昭和 60 (1985)年	平成 2 (1990)年	平成 7 (1995)年	平成 12 (2000)年	平成 17 (2005)年	平成 22 (2010)年	平成 27 (2015)年
小布施町	1.87	1.63	1.60	1.28	1.10	1.42	1.39
長野県平均	1.85	1.71	1.64	1.59	1.46	1.53	1.58
全国平均	1.76	1.54	1.42	1.36	1.25	1.39	1.45

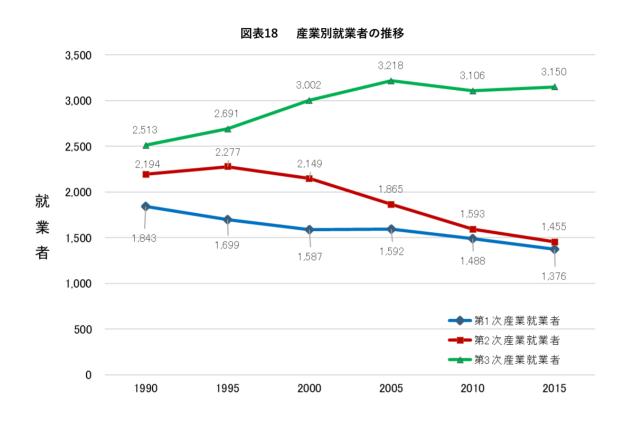
## **\*\*\***

#### 4. 雇用や就労に関する分析

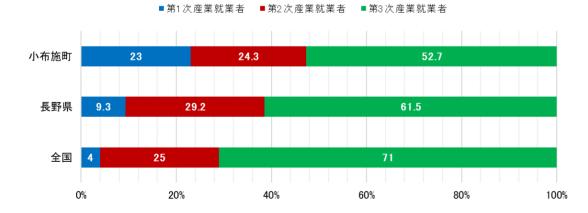
#### 産業別就業者の状況

第 1 次産業、第 2 次産業の就業者数はどちらも減少傾向にあります。第 3 次産業の就業者数は 平成 17(2005)年以降に減少し、平成 22(2010)年以降に増加しています。

就業者の構成比をみると、第1次産業の就業者割合が国や県よりも多くなっています。



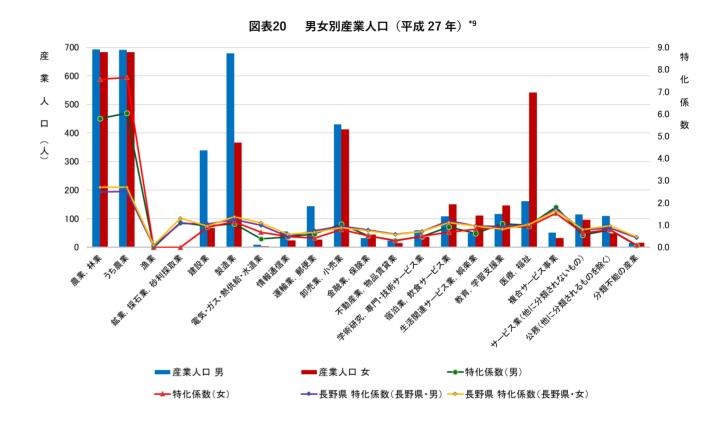




#### 男女別産業人口の状況

男性は農業、建設業、製造業、卸売・小売業の就業者が多く、女性は農業、製造業、卸売・小売業、医療・福祉の就業者が多くなっています。

特化係数\*8をみると、男女とも農業(男性 5.8、女性 7.6)が非常に高く、次いで複合サービス事業(男性 1.8、女性 1.5)、製造業(男性 1.0、女性 1.0)が高くなっています。



<sup>\*8</sup> 産業別の小布施町の就業者比率/全国の就業者比率

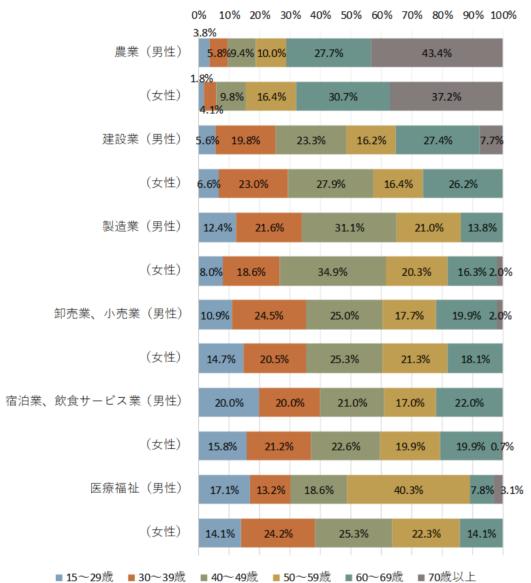
<sup>\*9</sup> 国勢調査、従業地・通学地における人口・産業等集計より作成

#### 年齢階級別産業人口の状況

男女ともに就業者数と特化係数が最も高い農業は、60歳以上が約70%を占めており、高齢化が進んでいます。今後、就業者が急激に減少する可能性があり、担い手の確保が課題です。

製造業、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、医療福祉は、比較的年齢構成のバランスが とれており、幅広い年齢層の雇用の受け皿となっています。建設業も比較的年齢のバランスが取れ ていますが、建設業の15~29歳の割合が低い点が懸念されます。





26



## 町民意識調査による町民の意向

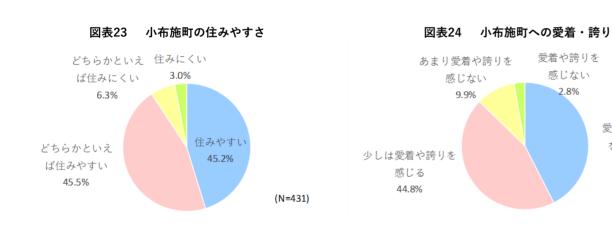
#### アンケート概要

図表22 町民意識アンケートの概要

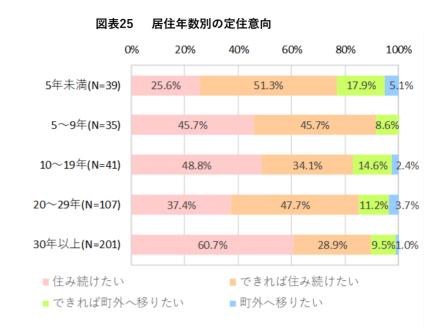
	四分に 「」」がの時が、、、 」 である					
項目	内容					
対象者	小布施町民 1,000 人(20 歳以上)					
実施期間 令和元年7月31日 ~ 令和元年8月20日						
抽出方法	20代200人、30代200人、40代200人、50代150人、60代150					
	人、70 代以上 100 人とし、無作為で抽出					
	回収数:445人					
回収数、回収率	回収率:44.5%(20代:33.5%、30代:37.5%、40代:34.5%、					
	50代:51.3%、60代:58.0%、70代以上:59.0%)					

#### 暮らしの満足度・定住意向

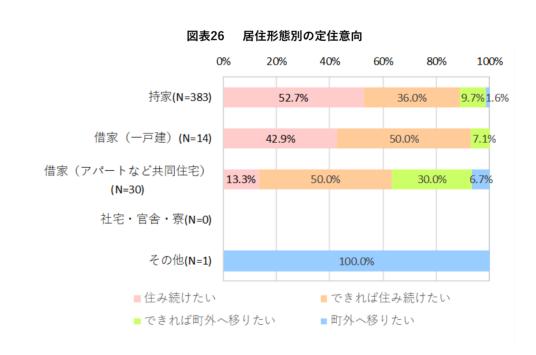
小布施町の住みやすさについては、90%以上の町民の皆さんが「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と感じています。また、約90%の町民の皆さんが小布施町に愛着や誇りを感じています。



今後の小布施町での居住意向については、約 90%の町民の皆さんが住みやすさを実感するとともに、シビックプライド\*10 を持ち、将来への定住意向が高いものの、居住年数が 5 年未満では約 20%が「できれば町外へ移りたい・町外へ移りたい」と考えています。



「持家」、「借家(一戸建)」の人は約90%が定住意向であるものの、「借家(アパートなど共同住宅)」の人は約40%が「できれば町外へ移りたい・町外へ移りたい」と考えており、「借家(アパートなどの共同住宅)」の人は、持家や借家(一戸建)の人より定住意向が低い傾向があります。



28 29

愛着や誇り

を感じる

42.5%

(N=433)

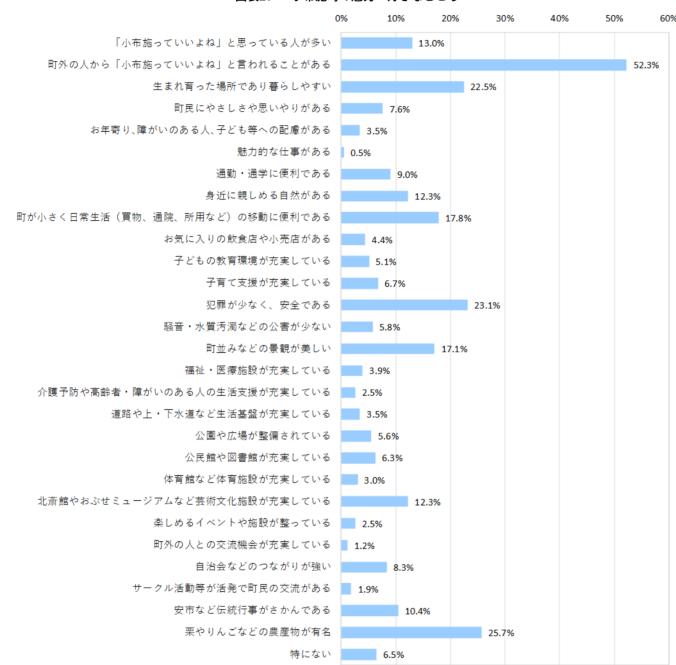
<sup>\*10</sup> 都市に対する住民の誇りだけでなく、「よりよい場所にするために自身が関わっている」という当事者意識に基づく自 負心を意味する言葉

## **\*\*\***

#### 小布施町の魅力・好きなところ、問題点

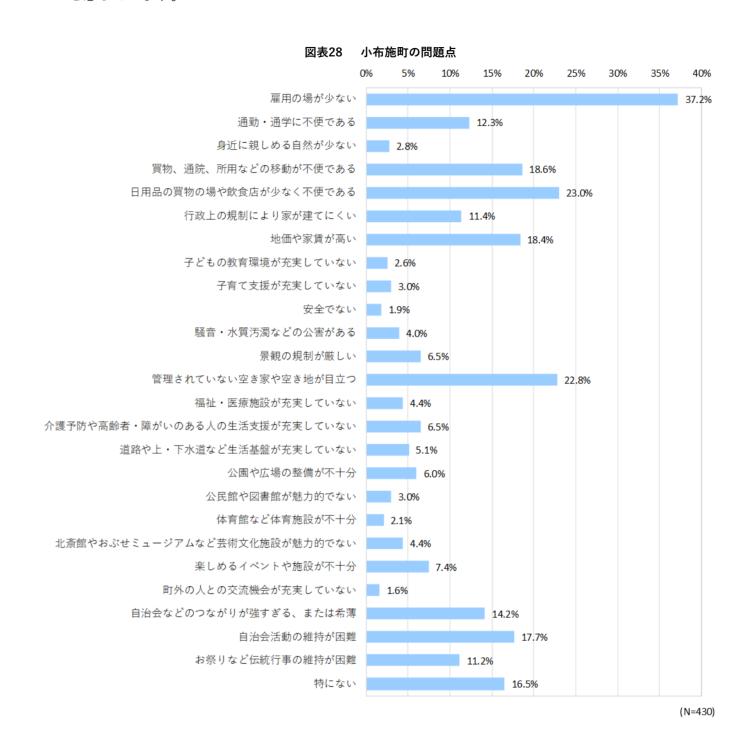
小布施町の魅力は、2 人に 1 人は「町外の人から『小布施っていいよね』と言われることがある」、4 人に 1 人は「栗やりんごなどの農産物が有名」であることに魅力を感じています。

図表27 小布施町の魅力・好きなところ



(N=432)

一方で、住みやすさや継続的な居住意向、居住年数に関わらず「雇用の場が少ない」ことに問題を感じています。



#### 今後充実を図るべき分野・事業\*11

全体を通して「健康・医療」、「福祉」、「出産・子育て・教育」が上位で、日常の町民生活に関わりの深い分野の充実を望む意向が強くなっています。

今後充実を図る事業としては、全世代を通して「特定健診等の健康診断を受診しやすい環境・仕組みづくりの推進」、「安心して医療を受けられる環境整備の推進」、「介護に取り組む家族への各種支援」は、安心で健康な町民生活の基本として重要であると感じています。

また、これまで推進されてきた、町外への発信力が高い小布施町らしく個性ある取組である「図書館利活用の推進や内容の充実」、「アート、スポーツ、娯楽など若者文化の育成・支援」、「栗、ブラムリー、チェリーキッス、小布施丸なすなど付加価値の高い加工用果樹等のブランド化」、「国道403号の整備による小布施町らしい景観と賑わいづくり」などについては、今後も重要であると考えられています。

図表29 充実を図るべき分野

年代	1位	2位	3位
20代	出産・子育て・教育	健康・医療	産業振興
30代	出産・子育て・教育	健康・医療	福祉
40代	健康・医療	出産・子育て・教育	福祉
50代	福祉	健康・医療	出産・子育て・教育
60代	福祉	健康・医療	出産・子育て・教育
70代	福祉	健康・医療	出産・子育て・教育
80代・	福祉	健康・医療	出産・子育て・教育
90代	<b>1田1</b> 工		山圧・丁月し・叙月



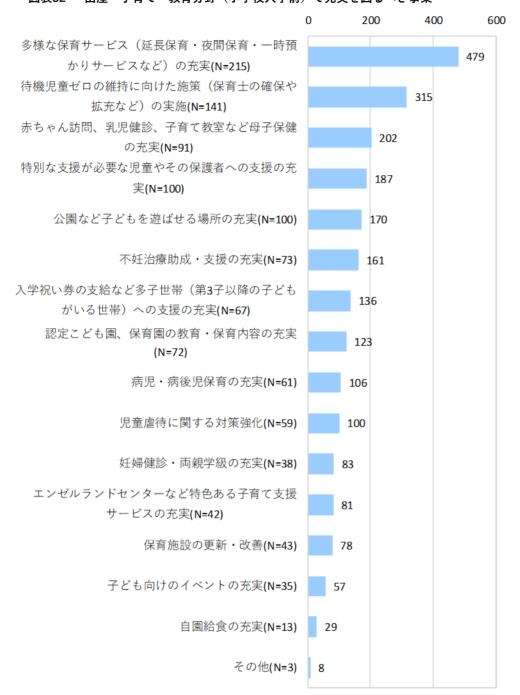
図表31 健康・医療分野で充実を図るべき事業



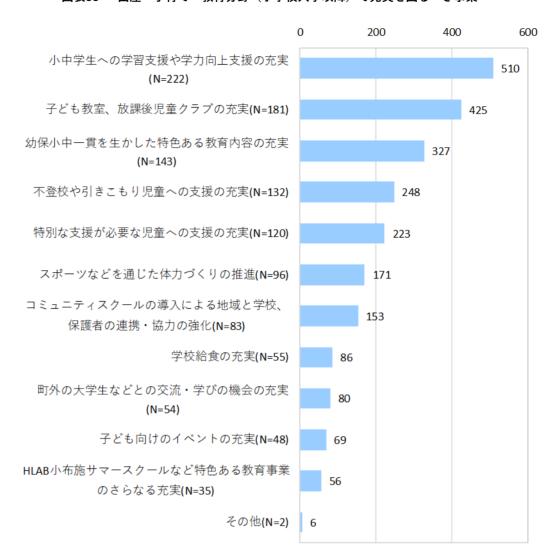
<sup>\*11</sup> 点数算出は、優先順(1位~3位)を回答する設問で、1位を3点、2位を2点、3位を1点とした結果の合計点

**\*\*** 

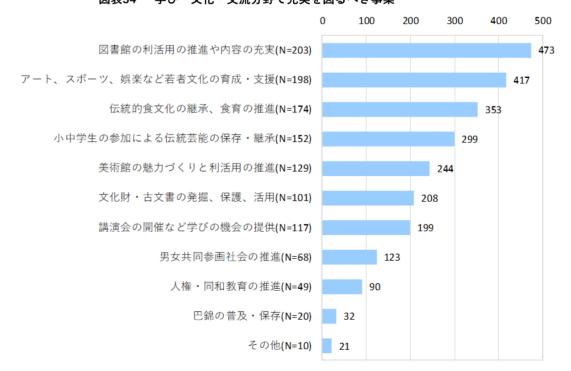
図表32 出産・子育て・教育分野(小学校入学前)で充実を図るべき事業



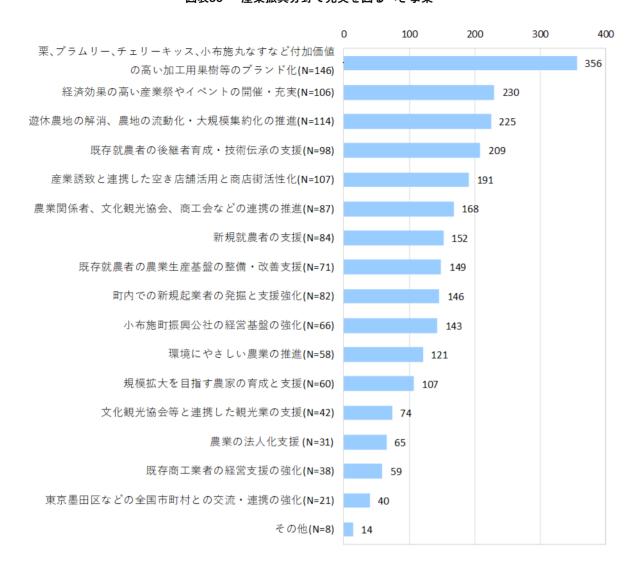
図表33 出産・子育て・教育分野(小学校入学以降)で充実を図るべき事業



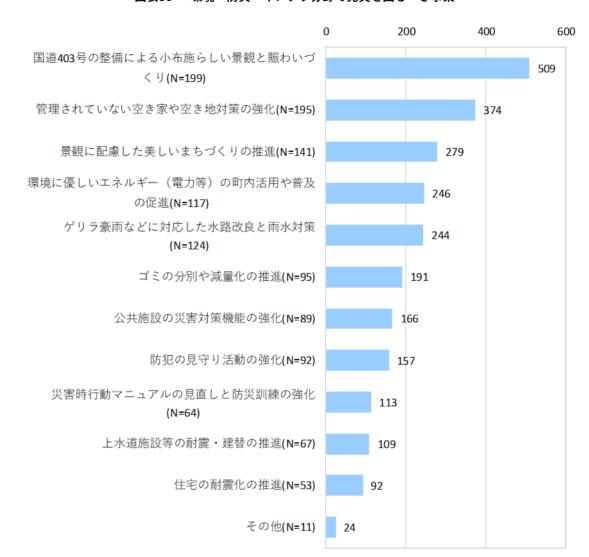
図表34 学び・文化・交流分野で充実を図るべき事業



図表35 産業振興分野で充実を図るべき事業



図表36 環境・防災・インフラ分野で充実を図るべき事業



#### 序論 町民意識調査による町民の意向

図表37 行財政改革・町民との協働分野で充実を図るべき事業

